



J R九州の MaaSの取り組み

2020年3月19日

九州旅客鉄道株式会社総合企画本部経営企画部

モビリティサービス推進室長

木下 貴友



KYUSHU RAILWAY COMPANY



■ 経歴

2000年 東京大学教養学部卒業 J R九州入社後、駅・車掌・人事課を経験し

2003年（九州新幹線第1期開業時）営業部**観光担当**：観光（D&S）列車の立ち上げ・観光開発

2006年 営業部**ICカードプロジェクト**

→**SUGOCA**(2009年3月リリース)導入キックオフメンバー
2010年のSuica相互利用・**ポイントサービス導入**を担当

2010年 営業部営業課（設備）

→バリアフリーや九州新幹線全線開業の駅設備担当
特命で**インターネット列車予約**の全線開業対応

2012年 国土交通省総合政策局国際政策課課長補佐（人事交流）

2014年 営業部営業課（輸送・収入施策）副課長

→収入計画／**データ分析**／**ポイントサービス統合**／**デジタルマーケティング**／**営業関係システム**

2017年 **I T推進部**担当課長

→**セキュリティ・システム基盤・経営基幹システム・デジタル戦略策定**など 特命で**MaaS**検討

2020年 **経営企画部モビリティサービス推進室**室長

→**MaaS・モビリティサービス**構築を専任

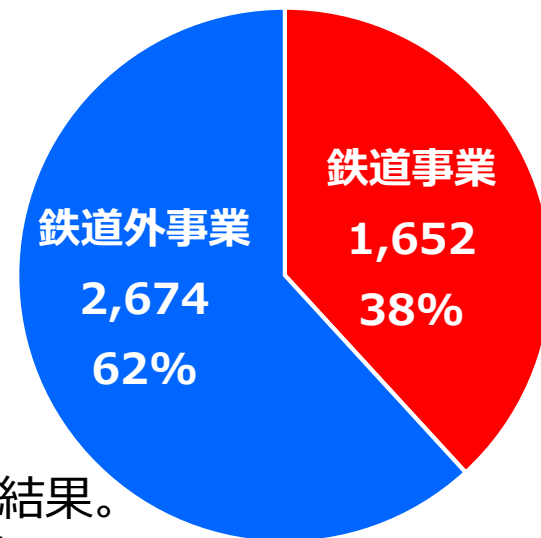
■ 会社の紹介

「九州旅客鉄道」という社名でありながら、**鉄道運輸収入は4割以下**。
少子高齢化の進む中鉄道事業は厳しい状況で、**駅ビル、小売、外食など多角化を推進**。

営んでいる主な事業

- まちづくり事業 博多、小倉、長崎、大分、鹿児島など 最近では六本松など
自社線の沿線外にも進出
- マンション事業 分譲では九州 1 位にも。賃貸は東京、大阪にも進出
- ホテル事業 東京、那覇、京都にも展開
- 外食事業 フランチャイジーの他、居酒屋など 東京にも進出
- 流通事業 ファミリーマートのエリアフランチャイズ ドラッグストアなど
- 農業 「うちのたまご」ブランドの卵や各種野菜
- 船舶事業 博多ー釜山に高速船を運航 など

2019年度連結決算
営業収益
(単位：億円)



2016年度決算から、鉄道事業も念願の黒字化！

→2015年度決算で実施した5,000億円超の**多額の減損処理**の結果。

減価償却費も積みあがりつつあり、鉄道事業の収支改善が重要。

2020年度は**新型コロナウイルスの影響で危機的状況**。



■九州の交通を取り巻く環境

高齢化率

28.5%

2017年総務省
65才以上人口

買物困難者

994千人

2015年農林水産政策研究所
店舗まで500m以上かつ
自動車利用困難な65才以上

免許返納者数

283百人

2017年警察庁
75歳以上の申請取消件数

社会問題と公共交通の
課題は密接に関係

移動の自由の確保は
喫緊の課題

学校統廃合

過去15年間

1138校

2017年文部科学省
2002~17年度までの
公立小中高

無医地区数

146地区

2014年厚生労働省
当該地区の中心的場所から
半径4km以内に50人以上居住し
容易に医療機関を利用できない地区

タクシー輸送人員

過去10年間

3割減

2017年九州運輸局
2006年／2016年比較

赤字バス会社

90.9%

2017年国土交通省
30台以上保有する九州の
バス会社33社中30社が赤字

運輸業

有効求人倍率

約 3 倍

■九州の交通を取り巻く環境

高齢化率

28.5%

2017年総人口
65才以上人口

買物困難者

994千人

店舗まで500m以上かつ
自動車利用困難な65才以上

免許返納者数

283百人

75歳以上の申請取消件数

「移動の自由のない地域は衰退する」

赤字バス会社

90.9%

2017年国土交通省
30台以上保有のバス会社33社中30社が赤字

学校統廃合

過去13年間
138校

2002~17年度までの
学校統廃合

無医地区数

146地区

2014年厚生労働省
半径4km以内に50人以上居住し
容易に医療機関を利用できない地区

九州から離れられないJR九州にとって
「住み続けられる地域」の維持は
地域交通に責任のある企業の責務であり、
グループ事業の基盤としても

極めて重要な命題

タクシー輸送人員

過去10年間

3割減

2017年九州運輸局
2006年/2016年比較

社会問題と
公共交通の課題は
密接な関係

運輸業

有効求人倍率

約 3 倍

■JR九州のMaaSに対する理解

MaaS = **M**obility **a**s **a** **S**ervice 「移動の全てをひとつに！」

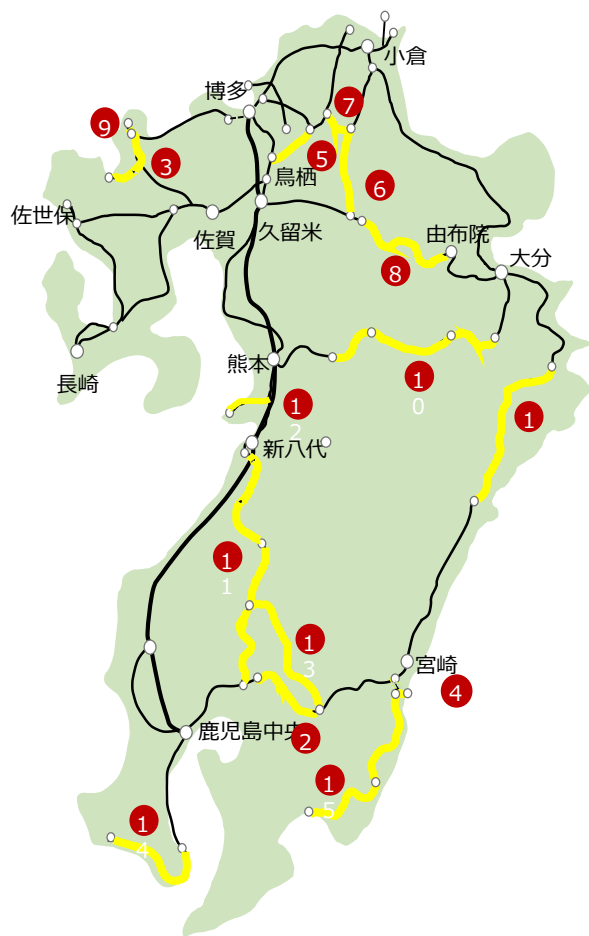


「モビリティ連携」と「デジタル活用」で
シームレス・持続可能な移動サービスを実現
「モビリティ」と「着地のコンテンツ＝移動目的」の融合
移動需要の創出

新時代の地域経済活性化策として期待

■ 地方公共交通の現状：JR九州の線区別収支の開示

- 平均通過人員が2,000人/日未満の線区（国鉄時代なら廃止対象）について収支を公表
- 自治体・沿線住民と**厳しい収支状況**を共有し、線区の持続可能性向上を目指して協働での取り組みを進めている



線名	区間	営業損益	【参考】 平均通過人員(人/日)		
			1987年度	2019年度	減少率
日豊本線	佐伯～延岡	▲746	3,428	858	▲75%
	都城～国分	▲368	2,029	1,389	▲32%
筑肥線	伊万里～唐津	▲235	728	214	▲70%
宮崎空港線	田吉～宮崎空港	10	—	1,854	—
筑豊本線	桂川～原田	▲84	2,981	467	▲84%
日田彦山線	田川後藤寺～夜明	—	1,103	— (299) ^{※1}	—
後藤寺線	新飯塚～田川後藤寺	▲167	1,728	1,272	▲26%
久大本線	日田～由布院	▲96	2,564	1,756	▲32%
唐津線	唐津～西唐津	▲185	1,315	1,024	▲22%
豊肥本線	肥後大津～宮地	—	2,711	— (1,854) ^{※2}	—
	宮地～豊後竹田	▲289	1,028	96 (463) ^{※3}	▲91%
	豊後竹田～三重町	▲174	2,384	917 (1,331) ^{※3}	▲62%
肥薩線	八代～人吉	▲621	2,171	414	▲81%
	人吉～吉松	▲270	569	106	▲81%
	吉松～隼人	▲370	1,109	605	▲45%
三角線	宇土～三角	▲242	2,415	1,187	▲50%
吉都線	吉松～都城	▲319	1,518	451	▲70%
指宿枕崎線	指宿～枕崎	▲354	942	277	▲71%
日南線	田吉～油津	▲403	2,129	1,133	▲47%
	油津～志布志	▲357	669	199	▲70%

■ 地方公共交通の現状とMaaS

現状



- ・もはや**競争**の成立しないマーケットで競争
- ・それぞれが非効率な運営で**赤字**を生む
- ・減便・路線廃止など**ネットワークの縮小**
- ・路線バスのコミュニティバスへの転換
→ネットワークの断絶 実態に合わない運営
- ・支える**労働力も不足**

MaaSの世界



- ・各モビリティが連携した
新しい地域公共交通サービス

<地方公共交通とMaaS>

- MaaSは**公共交通ネットワークのあり方**の大転換の契機
- MaaSを活用し公共交通ネットワークの**再構築・再配置**を目指したい
→**収支改善**と輸送量に応じた**適正な輸送モード**の選択
持続可能な交通ネットワークづくり
- 「仲間」が多いほどオペレーションコストは低下

■ MaaSの取り組みの背景

外部環境の変化

- ・ 少子高齢化・人口減少などの社会課題の顕在化
- ・ 地方の公共交通ネットワークの急速な衰退とそれに伴う地域の活力低下
- ・ 労働力不足
- ・ MaaS、自動運転、シェアサービスなどの技術革新

MaaSへの期待

- ・ 各交通モードの連携による利便性向上と利用促進
- ・ 持続可能な公共交通ネットワーク構築
- ・ 「まちづくり」への活用
- ・ データを活用したグループの成長戦略
- ・ 社会課題の解決

MaaSへの懸念

- ・ 新しいモビリティの出現による脅威
- ・ 海外や異業種の強大なプレイヤーの進出
- ・ 交通事業に破壊的な変革が起きる可能性

MaaSによる交通事業の革新の潮流をとらえ取り組みを推進

公共交通を担う責任ある企業として
持続可能なモビリティサービスづくりで地域に貢献

+ 新型コロナウイルスの影響で「待ったなし」の状況に

経営計画の体系と2030年長期ビジョン

《経営計画の体系》



あるべき姿

安全とサービスを基盤として
九州、日本、そしてアジアの
元気をつくる企業グループ

- ・お客さまや地域社会を豊かに
することで九州の持続的な発展に
貢献し、九州の元気をつくる
- ・事業の軸足である九州で
強みを確立した事業については、
日本、アジアへ展開

おこない

誠実／成長と進化／地域を元気に

- ・日本、アジアで事業を磨き、
九州に還元

2030年長期ビジョン

安全・安心なモビリティサービスを軸に
地域の特性を活かしたまちづくりを通じて
九州の持続的な発展に貢献する

- ・九州のモビリティサービスを担う企業グループとして、人口減少や自然災害等の脅威に対応するため、
新たな技術の取り込みや他社との連携により、安全・安心を基盤とした持続可能なモビリティサービスの
構築に挑戦 (P19)
- ・モビリティサービスを軸としたまちづくり (P26) を通じて、住みたい、働きたい、訪れたい九州に貢献
(定住・交流人口拡大、雇用創造)

新たな領域における成長と進化 —技術革新をとらえた事業の進化—

長期的な技術革新の潮流をとらえ、次の成長ステージに向けて、事業の持続的な成長と更なる飛躍を目指します。

新たなモビリティサービス(MaaS)への挑戦

都市型 MaaS

- ・タクシー会社と協同により、お客さまの利便性を高める実証実験を開始
- ・他のモビリティ、シェアリングサービスとの連携を更に図り、「まちづくり」に活かせるMaaSオペレータとしての検討を推進
- ・ベンチャー企業等の知見も活用

地方型 MaaS

- ・地域交通のあり方をテーマに、持続可能なモビリティサービスとしての適用性について検討を開始

観光型 MaaS

- ・観光施設や商業施設等との連携により、沿線地域の活性化につながるモデルを構築

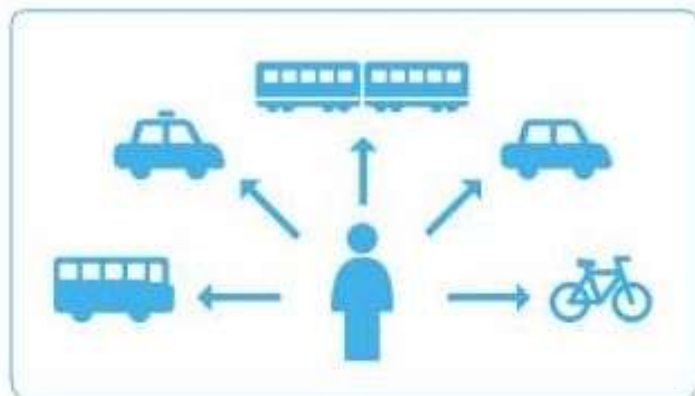
新しい技術の活用

将来に向けた 鉄道事業 の挑戦

- ・IoT技術を活用した省力化と安全性の向上
- ・自動運転の実現
- ・新列車制御システムの導入
- ・運行管理のAI化
- ・次世代車両検査拠点の整備

省力化 省人化 投資

- ・流通事業、外食事業における省人化店舗、モバイル決済の導入
- ・5Gを活用した建設業における省力化、省人化推進
- ・RPAの各事業での拡大



デジタル領域における取り組み

- ・25万人を超える「JRキューボ」おまとめ会員への取り組み（アプリ導入、機械学習による優良顧客育成等）
- ・グループ横断のデジタルトランスフォーメーション

数値目標

おまとめ会員数 : 50万人
おまとめ会員販売収入 : 350億円

■ JR九州がMaaSに取り組み始めて見えてきたこと

① 自動運転モビリティやオンデマンド交通の活用

→法令対応やドライバー・拠点確保が必要。

グループにタクシー事業がなくバスは零細。自社単独では厳しい。

② 地域の交通事業者の想像以上に厳しい経営状況

→交通事業者に加え自治体等などと地域一体となった連携が必要。

③ シームレスな交通ネットワークづくりの課題

→特に地方で地域交通サービスが急速に縮小。

「情報」の連携だけではなく「実輸送サービス」の連携も重要。

④ アプリ・プラットフォーム

→リソース（技術・人材・資金）が必要。

九州の交通事業者が共同で利用できるスキームが重要。

⑤ JR九州が提供するサービス＝安全の確保も重要

MaaSの実現には事業者同士の連携が重要！

■ JR九州のMaaSの取り組みのアプローチ

(気づき1)

当初は、MaaSのキラキラしたテクノロジーである自動運転やシェアリングサービスなどベンチャーとのビジネスマッチングを始め、四方八方に話を聞いていた。

→JR九州が**道路上のモビリティのオペレーターになるのは、極めて難しい**。
鉄道会社にとって安全は事業の基盤。**安全の確保も重要**なテーマ。

(気づき2)

MaaSは、プラットフォームやアプリで各モードの情報が連携し、経路検索から決済、利用まで、シームレスにサービスを提供。

【疑念】
→過激しい競争してきた会社と連携するなど、**可能なのか？**
アプリで経路情報しても、**地方に行けば行くほど使えない公共交通ネットワーク**。

(気づき3)

MaaSを考えれば考えるほど、地方の公共交通事業者の厳しい現状を改めて認識。

→**MaaSを「持続可能な公共交通ネットワーク構築」のための手段に**。

MaaSの実現には、他の交通事業者との連携が重要！

■ 高速道路・高速バスとの戦い：鉄道運輸収入の推移（単位：億円）

新駅開業 38駅
新車投入
列車増発

1988 ハイパーサルーン



1989 ゆふいの森



1990 811系



1992 つばめ



列車増発
高速化
割引きつぷ投入

1995ソニックにちりん



2000白いかもめ



高速道路の延伸

1990 長崎道全通

1995 九州道

鹿児島まで全通

1996 大分道全通

1999 福岡都市高速と
九州道が接続

西鉄高速バス



2000

福岡～北九州1000円など、
1000円・1500円高速バス
登場

グランドパス65発売



■ JR九州と西鉄のビジョン



安全・安心なモビリティサービスを軸に地域の特性を活かしたまちづくりを通じて九州の持続的な発展に貢献する

- ・ 収支改善による持続的な鉄道サービスの構築
- ・ 新たなモビリティサービス(MaaS)への挑戦
- ・ 新しい技術の活用



地域と連携した、「利便性の高い」交通の提供と「人が集う」まちづくりへの取り組み

- ・ 地域特性に応じた持続可能な交通ネットワークの構築
- ・ 他モードとの連携深化・路線やサービスの強化による利便性の向上
- ・ 先端技術の活用による安全で利用しやすい交通サービスの提供

**交通・まちづくりにおいて
同様のビジョンを掲げ、取り組んでいる**

■ 競争から協調へ 西鉄とJR九州の連携

現状

これまでJR九州と西鉄は、地域の発展を目指し、輸送サービスの提供やまちづくりに個別に取り組んできた

環境の変化

公共交通の重要性が高まり、モビリティの
転換期を迎え、会社ごと・モードごとではなく、
地域における移動の全体最適化が必要

**JR九州と西鉄は輸送サービスの利便性向上に
連携して取り組むことを決定**

J R九州と西鉄は輸送サービスの利便性向上に連携して取り組みます

このたび、九州旅客鉄道株式会社（福岡市博多区 代表取締役社長執行役員：青柳俊彦／以下「JR九州」）と西日本鉄道株式会社（福岡市博多区 代表取締役社長執行役員：倉富純男／以下「西鉄」）は、輸送サービスにおける連携に関する覚書を締結しました。

少子高齢化の進展・人口減少、地球環境への配慮、自動運転をはじめとしたモビリティにおける技術革新など、輸送サービスにおける事業環境は、転換期を迎えています。こうした時流の下、交通事業者は、これまでの事業のあり方に捉われない、大きな変革が求められています。

これまで、同じ福岡・九州の地において、地域とともに歩み、地域とともに発展することを共に理念に掲げ、輸送サービスの提供やまちづくりに取り組んできた両社は、更なる地域への貢献を念頭に、輸送サービスの大きな変革への対応と企業価値の向上を実現するため、会社の枠を超えて連携し、お客さま目線での「利便性の高い輸送サービスの実現」に取り組むことに合意しました。

連携当初の取り組みとして、MaaS（※）の活用について具体的な検討を行い、両社の持つ公共交通を活かした情報提供サービスを展開することで、移動の利便性向上を図ります。

さらに今後は、利便性が高い持続可能な公共交通ネットワークの構築に向けて、新たなテクノロジーを活用しながら、両社で連携して取り組んでまいります。

両社による取り組みの具体的な内容は、検討の進捗に合わせ、随時発表します。

（※）MaaS=Mobility as a Service 様々な交通機関が連携し、モビリティ（移動）を1つのサービスとしてとらえ、シームレスにつながる新たな「移動」の概念

【今後の検討内容（案）】

お客さま目線での「利便性の高い輸送サービスの実現」を目指し、今後両社で連携して実施可能な内容を検討し、協力して取り組んでまいります。

■MaaS 分野での連携

【例】両社が連携した MaaS アプリによる新たなサービスの提供

■公共交通のご利用促進につながる輸送サービスの提供

【例】バス・鉄道の乗りかえ利用の利便性向上（サイン・運行情報相互提供・乗りかえ利用促進に資するダイヤの検討）など

※両社の輸送サービスを最大限活用し、お客さまのニーズに合った公共交通サービスを提供

■公共交通の利便性を向上させるための新しいテクノロジーを活用した輸送サービスの実現

【例】ビッグデータの活用と新たなモビリティサービスの提供 など

きっかけは「MaaSでの連携」
→本当に取り組むべきなのは
「輸送サービスでの連携」

【本件に関する問い合わせ先】

九州旅客鉄道株式会社 広報部

TEL：092-474-2541

西日本鉄道株式会社 総務広報部広報課 古屋、野崎

TEL：092-734-1217

■ 今後の方向性



安心・快適で持続可能な
公共交通ネットワークを構築

2020年3月14日より

小倉への通勤・通学、
お出かけが速くなる!

西鉄と
JR九州の
連携事業

下曽根駅の電車とバスのお乗り継ぎが便利に!!



スムーズにお乗り換えいただくためサービスを拡充!

バスの車内モニターで下曽根駅からの
JR発車時刻の案内を実施

下曽根駅に
バスの停留所路線を示す、
案内サインを新設

下曽根駅での乗り継ぎポイント
キャンペーンを実施(3/14~6/30)
期間中、下曽根駅にて
西鉄バスとJRを同一日に乗り継いだ
お客さまへ20ポイント差し上げます
(※定額)

下曽根駅にバスの運行状況を
お知らせする
「バスの接近案内表示」を設置

下曽根駅構内に
バス待ち合い用のベンチを増設

【※注】乗り継ぎポイントの付与条件

○「下曽根駅前」または「下曽根駅南口」バス停とJR「下曽根駅」にてお乗り継ぎされた場合です。○同一日の乗り継ぎに限りです。○nimocaまたはSUGOCAで、ICカードにチャージされたお金で運賃を支払う場合に限りです。○現金支払や定期券利用、他社の交通系ICカードなどの乗り継ぎは対象外です。○同一のnimocaまたはSUGOCAの利用に限りです。○ポイント(nimocaポイント、JRキユーボ)は、ご利用の翌月に準備でき次第付与します。○駅の自動改札機やバス乗降口の読み取り部にタッチされなかった場合はポイントが付与されません。

乗り継ぎをスムーズに!
「My route」は
こちらから

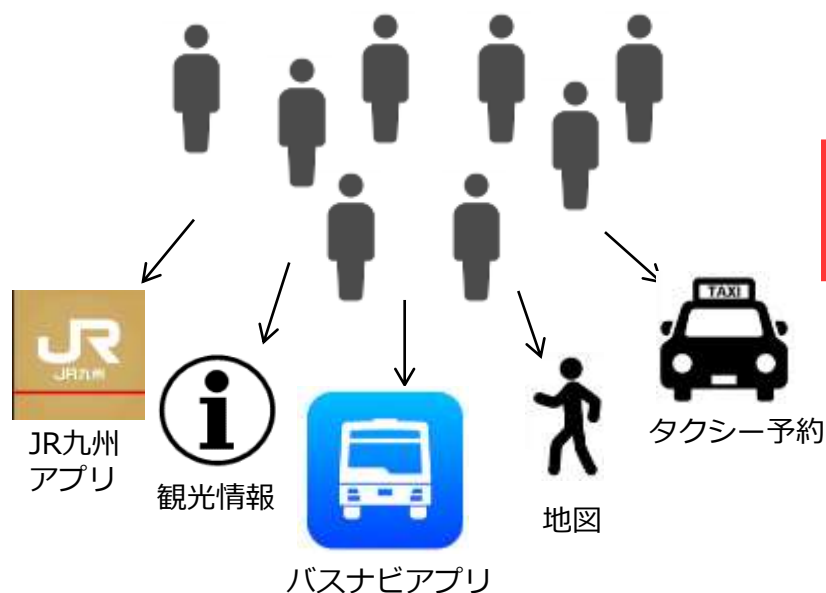


にしてつグループと九州旅客鉄道株式会社は
輸送サービスの利便性向上に連携して取り組んでいます。

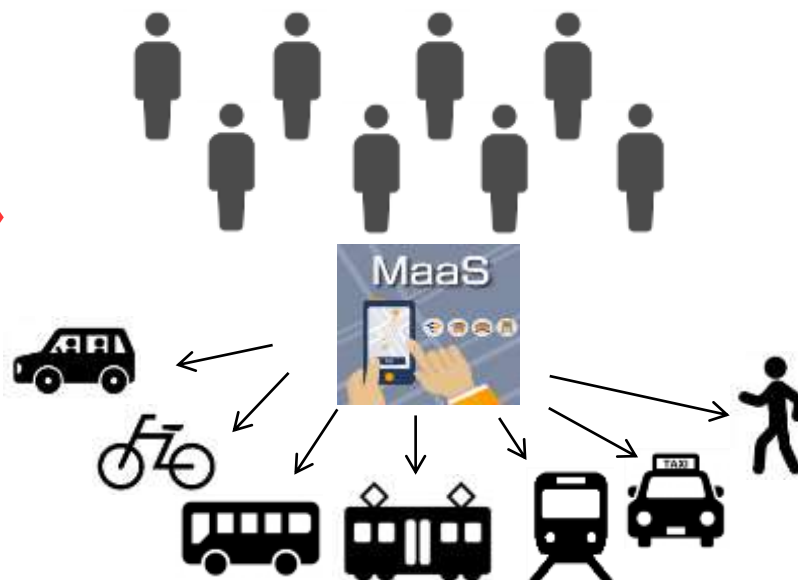


■ MaaS分野での連携

現状



MaaSイメージ



**両社が連携したMaaSアプリによる
新たなサービスを提供**

2019 年 11 月 27 日

トヨタ自動車株式会社
西日本鉄道株式会社
九州旅客鉄道株式会社

トヨタと西鉄、マルチモーダルモビリティサービス 「my route」を福岡市・北九州市で本格実施

ー JR 九州も加わり、さらなる利便性向上とサービス拡充を目指す ー

トヨタ自動車株式会社（以下、トヨタ）と西日本鉄道株式会社（以下、西鉄）は、交通および店舗・イベント情報のサービサー各社と協力し、トヨタが開発したスマートフォン向けマルチモーダルモビリティサービス「my route(マイルート)」を、2019 年 11 月 28 日より福岡市・北九州市で本格実施します。また、九州旅客鉄道株式会社（以下、JR 九州）が新たに参画します。

トヨタと西鉄は、2018 年 11 月 1 日より福岡市で「my route」の実証実験を実施しており、本サービスの実用性の検証と機能改善を行ってまいりました。実証期間の 1 年間で約 30,000 件のアプリダウンロード数に加え、利用後アンケートでは、約 8 割のユーザーから「満足」と回答いただく等、大変好評をいただき市場性が認められました。そのため、実証を行った福岡市に加えて、北九州市にもサービス提供エリアを拡大し、本格実施に至りました。

本格実施に伴い、TOYOTA Wallet^{*1} 対応による電子決済手段の拡充、TOYOTA SHARE 対応によるトヨタのカーシェアサービスの提供、従来の日本語・英語に加えて中国語（繁体字・簡体字）・韓国語に対応を予定^{*2}しており、「my route」の利便性を大幅に高めます。

福岡市では、これまで販売していた西鉄バス・西鉄電車のフリー乗車券に加えて、福岡市・西鉄・JR 九州・昭和自動車が共同で提供する訪日外国人専用 1 日フリー乗車券「FUKUOKA TOURIST CITY PASS」をデジタル化し、「my route」内で販売予定^{*2}です。

北九州市では、西鉄バスフリー乗車券（路線バスのみ）の販売を開始し、これまでの JapanTaxi との連携に加えて第一交通産業株式会社のタクシー配車予約サービス「モタク」とも連携を予定^{*2}しております。

さらに、福岡市に加えて北九州市と連携し、地元の観光スポット情報の提供など、移動したくなるきっかけづくりに取り組んでまいります。

また、九州新幹線や全国の高速バスと連携することで、城内のモビリティサービスのみならず、福岡市・北九州市を目的地・出発地とした長距離移動もサポートします。具体的には、列車のきっぷをインターネットで予約できるサービス「JR 九州インターネット列車予約」^{*3}、京王電鉄バス株式会社が提供する高速バス予約サービス「ハイウェイバスドットコム」^{*4}との連携を予定^{*2}しており、順次サービスを拡充してまいります。

今後も、トヨタ・西鉄・JR 九州が中心となり、福岡市・北九州市や他事業者と連携し、輸送サービスや「my route」の利便性向上に努めてまいります。

^{*1} iOS 版のみ。Android 版は 2020 年春ごろを予定。

^{*2} 2020 年春ごろを予定。

^{*3} 2020 年 1 月ごろを予定。

^{*4} 九州エリアでは、高速バス情報ポータルサイト「@バスで」で予約可能な高速バス路線がご利用いただけます。



■ 宮崎県におけるMaaS実証実験

2020年11月6日（金）スタート



宮崎を自在に、おトクに

私の楽しいに一直線

ポイント1
おトクなチケットが購入できる！
ANAの航空券
JR九州の新幹線や特急列車
高速バスの予約もマイルートから！

ポイント2
あなたに合った移動ができる！
シェアサイクルP/PPA、
トヨタシェア、トヨタレンタカー、
タクシーの配車などを利用した
ルート検索もマイルートで可能に！

ポイント3
宮崎のイベントや観光情報が満載！
地元企業社員が自らの目で集めた、
「出かけたくなる地元ならではの
の最新情報も満載！

宮崎の移動はマイルートアプリで！
支払い、お出かけ、旅行など“私の楽しい”を実現から、
最適なルート検索まで、自由に、便利に、おトクに、"My route"で一直線につながります。
携帯電話のご利用シーンにご活用ください。また、歩きスマホはご遠慮ください。

宮崎県におけるMaaS実証実験実行委員会

マイルート 宮崎 検索

JR 宮崎グループ Nishitetsu ANA 宮崎トヨタ PIPPA TOYOTA

■宮崎市街地の状況とMaaS

来街者数：10年間で約10%減
宮崎市まちなか活性化推進計画

**グリーンスローモビリティ導入
(宮崎市が運営)**

宮崎駅乗車人員 5000人/日
公共交通分担率の低さ



MaaSの活用

着地コンテンツ（商業施設）との連携
公共交通による来街促進
中心市街地の回遊性向上

■ 宮崎県におけるMaaS実証実験の背景

公共交通の苦境

少子高齢化・人口減少・労働力不足
郊外型SC立地による中心市街地への来街者の低下
+ **新型コロナウイルスの脅威**



アミュプラザみやざき
11/20オープン 約100店舗
宮崎県初登場38店舗

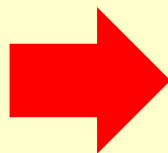
新しいモビリティサービスの登場
デジタル化の波

アミュプラザみやざきの開業
宮崎中心市街地活性化のチャンス

MaaSの活用

実証実験の主な取り組み

- ・ 多様な交通モードの連携
- ・ シームレスな交通サービスの実現
- ・ 交通と商業・観光の連携



目指すべき姿

- ・ 地域住民・観光客の利便性向上
- ・ 公共交通機関の利用促進
- ・ 市街地への来街促進・回遊性向上

「移動需要の創出」と「持続可能な公共交通ネットワークづくり」

**地域活性化のための
宮崎の新しい地域インフラに！**

■ 宮崎県におけるMaaS実証実験実行委員会

2019年12月、**宮交とJR九州**が中心に**産官学が一体となった実行組織**を設立。
参画企業の負担金と国土交通省・自治体の補助金により運営。

委員長 宮交ホールディングス

副委員長 JR九州

<交通事業者など>

宮崎交通・宮交タクシー

西日本鉄道・ANA

トヨタ自動車・宮崎トヨタ自動車

オーシャンブルースマート

<自治体>

宮崎県 宮崎市 日南市

<観光団体>

宮崎県観光協会 宮崎市観光協会 日南市観光協会

<アドバイザー>

国土交通省（九州運輸局・宮崎運輸支局・宮崎河川国道事務所）

宮崎大学 東急



■宮崎県におけるMaaS実証実験の概要

■実証実験期間

2020年11月6日（金）～2021年3月12日（金）→**実装フェーズ**に移行

■実施エリア

宮崎県宮崎市・日南市及びその近郊



■使用するMaaSアプリ「my route」

- ・トヨタ自動車・トヨタファイナンシャルサービスが開発・提供する「マルチモーダルモビリティサービス」
- ・福岡・北九州エリア、神奈川県横浜市、熊本県水俣市で展開中

■令和2年度「日本版MaaS推進・支援事業」に選定

- ・全国38事業が選定
- ・国土交通省・宮崎県・宮崎市・日南市のご支援により官民一体で実施

■提供サービス

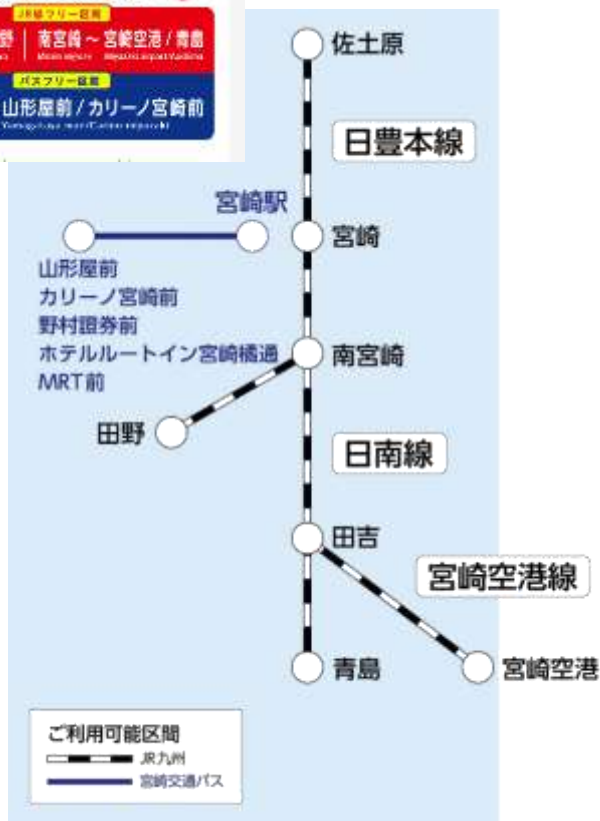
- ・「複合ルート検索」「チケット予約・決済サービス」など
- ・「モビリティサービス」と「生活サービス・観光」を組み合わせた様々なコンテンツを提供

■サービス概要：デジタルチケット

JR&宮交バス「お買物デジタルきっぷ」



宮崎交通



■発売価格：1,500円

■有効期間：1日

- ・ JR線は乗車券のみ有効
※特急列車（宮崎～宮崎空港間を除く）の乗車には、別に窓口で特急券の購入が必要。
- ・ JRフリー乗車券
+ アミュプラザみやざき商品券1,000円分
+ 宮崎駅～街ナカ
バス・グリーンスローモビリティ
フリー乗車券
- ・ 沿線施設のデジタルクーポンもセット。
JRとバスで街歩きが便利におトクに。

■ サービス概要：デジタルチケット

宮崎交通バス「お買い物券付き1日乗り放題乗車券」



■ 発売価格：1,500円

■ 有効期間：1日

- ・ 県外にまたがる高速・特急バス、延岡～宮崎線、宮崎～高千穂線、定期観光バス、コミュニティバスではご利用いただけません。
- ・ 宮崎交通バス1日乗り放題乗車券
+ アミュプラザみやざき商品券1,000円分
- ・ 沿線観光施設などにご利用いただけるデジタルクーポンもセット。

■サービス概要：デジタルチケット

JR&宮交バス「日南1デーフリーパス」



宮崎交通



■発売価格：大人2,000円（こども1,000円）

■有効期間：1日

- ・ JR線は乗車券のみ有効
※「海幸山幸」など特急列車（宮崎～宮崎空港を除く）の乗車には、別に窓口で特急券の購入が必要です。
- ・ 日南海岸の観光のご利用に加え、宮崎市～日南市のビジネス・買い物・通院などのお出かけにも、おトクにご利用いただけます。
- ・ 沿線観光施設などにご利用いただけるデジタルクーポンもセット。

■サービス概要：デジタルチケット

デジタルチケットにQRコードを活用したデジタルクーポンをセット

沿線の約40の施設で割引などの特典がご利用可能。

→地域コンテンツ（商業・観光）連携・回遊性向上



宮崎交通

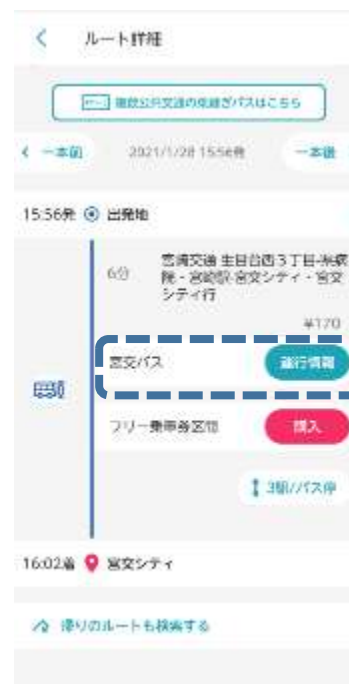
特典施設（一部）

施設名	店舗名	特典内容
宮崎観光ホテル	一木一草(レストラン)	ランチ・ディナーお食事代10%OFF
	ショップ売店	500円以上お買い上げの方、5%OFF
	ぷらーと(パンショップ)	購入時の割引
青島リゾート	ラグーンテラス	飲食お支払い合計から10%OFF
	中国料理 龍王	飲食お支払い合計から10%OFF
	カフェ&バー りっぶる	飲食お支払い合計から10%OFF
	日向雫	飲食お支払い合計から10%OFF
宮交S&R	青島屋	お支払い合計から10%OFF(一部商品対象外)
	萩の茶屋空港店	お支払い合計から10%OFF(一部商品対象外)
	萩の茶屋宮交シティ店	お支払い合計から10%OFF(一部商品対象外)
	ざぶーん(ANAホリデイインリゾート内)	お支払い合計から10%OFF(一部商品対象外)
	BUSコンビニ(宮交シティ内)	お支払い合計から10%OFF(一部商品対象外)

■サービス概要

JR九州線・宮崎交通バス運行情報提供

「my route」のルート検索結果から、JR九州の列車運行情報、宮崎交通バス運行位置情報が確認できます。



＜JR九州運行情報＞

＜バス位置情報＞

■サービス概要

マルチモーダルサービス連携 シェアサイクル「PiPPA」



宮崎市内で展開するシェアサイクル「PiPPA」（宮崎交通が運営）が利用できます。

鉄道・バスとシェアサイクルで新たな街ナカの移動スタイルを提供します

。 < ルート詳細

< サイクルポート情報



■ サービス概要

マルチモーダルサービス連携 カーシェア「トヨタシェア」

「トヨタシェア」（宮崎トヨタ自動車が運営）の予約・利用ができます。



■サービス概要

マルチモーダルサービス連携 カーシェア「トヨタシェア」

「トヨタシェア」（宮崎トヨタ自動車が運営）の予約・利用ができます。

実証実験実施に合わせ、**宮崎・南宮崎・青島・飫肥・日南・油津・南郷**の各駅にカーシェアステーションを新たに設置。

鉄道・バスとトヨタシェアを組み合わせた新しい移動スタイルを提供。



日南線日南駅



日豊本線宮崎駅高架下

■ サービス概要

地域の店舗・観光施設・イベント情報の提供

るるぶDATAなどと連携し観光施設・おでかけ情報を提供。

特集ページでは、地元企業（宮崎交通・宮崎トヨタ・JR九州）社員が自らの足で集めた、**出かけたくなる「地元ならではの」の耳より情報**を提供。

<現在の特集ページコンテンツ>



- お得なデジタルチケットのご紹介
- 地元のおすすめグルメ・観光地 8選
- アウトドア体験コース
- 宮崎・日南の観光コース
- アミュプラザみやざき情報

交通機関の利用がなくとも、**観光情報・生活情報アプリとしての価値を創出**

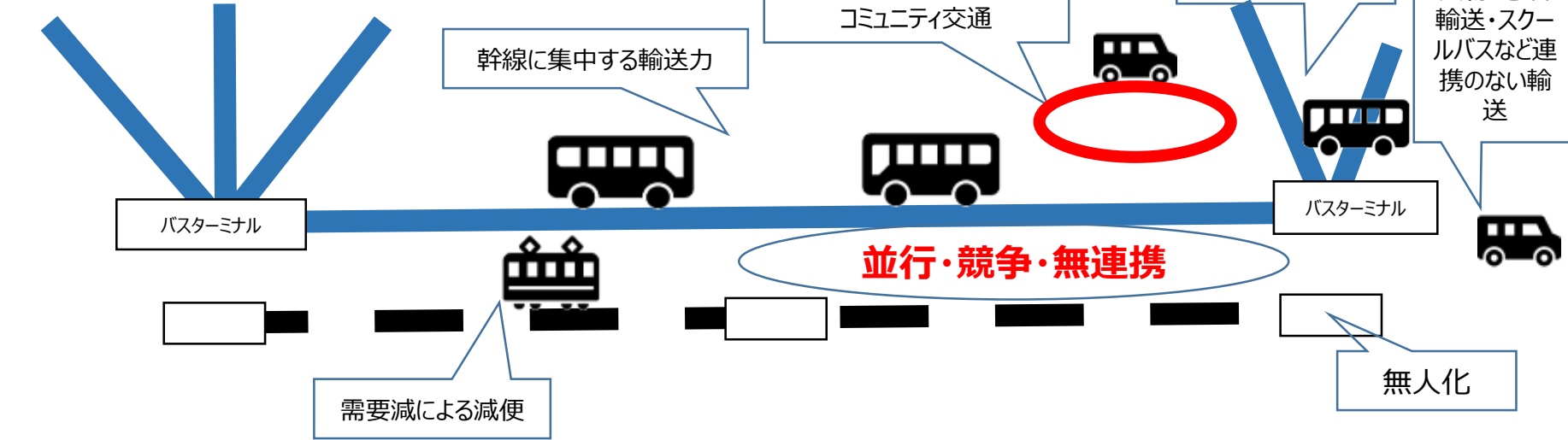
→ **地域に不可欠なアプリ**に育成

→ 交通事業者だけではなく**地域で支えるアプリ**に

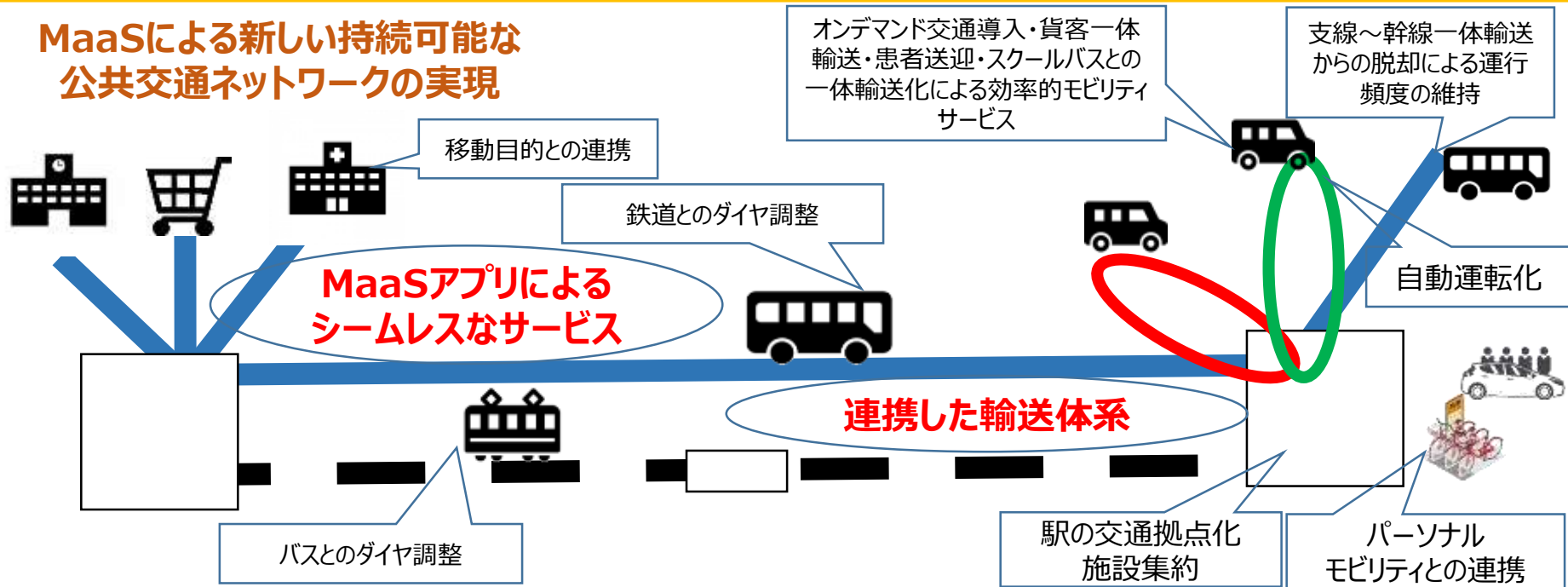
MaaSが**一過性に終わらないよう**
持続可能性を高める仕掛けも必要

■ 今後の展開…MaaSを活用した持続可能な公共交通ネットワークの構築

現在の公共交通



MaaSによる新しい持続可能な公共交通ネットワークの実現





ありがとうございました

